

自由応募分科会 3「中国の過剰生産能力問題と通商摩擦」・報告 2

報告テーマ

過剰生産能力問題に対する WTO 補助金ルールからのアプローチ
—米中アルミ紛争を素材に—

氏名(所属)

川島 富士雄(神戸大学)

要旨

鉄鋼やアルミに代表される中国の過剰生産能力問題は、世界市場に多大な影響を与えていると批判され、鉄鋼グローバル・フォーラムにおいて議題となる等世界的な関心を集めている。その主な原因として指摘されるのが、中国国有企業に対する補助金等各種優遇策である。この問題に対し多くの国は、自国への鉄鋼・アルミ等の製品の輸入に対し、セーフガード、アンチダンピング又は補助金相殺措置を発動する方法で対応しているところ、2018年3月、米国トランプ政権は、通商拡大法 232 条に基づき、国家安全保障を損なうおそれを理由に鉄鋼及びアルミ製品に対し関税引上げ措置を発動することで、実質的にこの問題に対応する姿勢を示した。これに先立つ 2017 年 1 月、米国オバマ政権は中国のアルミ産業に対する補助金が「補助金及び相殺措置に関する協定」(以下「補助金協定」という。)の対抗可能補助金に当たると主張し、世界貿易機関(WTO)の紛争解決手続に基づく協議要請を行ったが(WT/DS519)、同紛争はその後、棚上げされている。本報告は、同紛争を素材とし、WTO 法上、いかなる争点が生ずるか予測するとともに、中国の国有企業等に対する補助金(補助金協定 1.1 条)とそれによる「他の加盟国の利益に対する著しい害」(同 5 条(c)及び 6.3 条)の立証が可能か否か検討する。これにより現行の補助金協定の可能性と限界を探り、過剰生産能力問題に対処する上でどのような代替的アプローチがあるのか検討する。